

社会科部会

上田 定男

今日的課題に応える研究と実践を目指して

社会科部会では、この一年の課題に沿って三回の部会を、平和教育部会や地域・学校づくり部会との合同開催を含め、行いました。

一回目は中学校の教科書採択の年ということで、「つくる会」系教科書の危険性について学習しました。

まず、自由社と育鵬社の教科書の特徴や問題点：間違いや不正確な記述が多い、日本が始めた戦争を美化し異常に日本国憲法を敵視しているなど：について、矢澤さんから報告がありました。

次に、六年前に「つくる会」系教科書が採択された杉並区で再び採択させないための運動を進めている「杉並の教育を考えるみんなの会」の小関さんから、中学校退職以来一〇年間、一回も欠かさず

杉並区の教育委員会を傍聴したり、「つくる会」系教科書の批判、検討の学習会や不採択のための集会を組織してきたことなどが報告がされました。（詳細は「子どもと生きる」三〇〇号—インタビュー記事参照）

また、現場の中学社会科教師から、教師や子ども達に不評で、使うに耐えない教科書であることも報告がされました。

二回目は、明治大学生田校舎に保存されている旧陸軍登戸研究所見学のフィールドワークを行いました。ここは終戦まで極秘に謀略的な活動を行っていた所で、「風船爆弾」の開発で特に知られています。最近、明治大学の好意で一般公開されるようになりました。

風船爆弾は思ったよりも大きく、当時の最新の技術と機械で作られています

た。これらの兵器を作るためたくさん女子学生が動員されたり、また、実際に使われてアメリカ西海岸に到達し、アメリカの子どもたちが被害を受け、犠牲になったことを知ることが出来ました。

第三回は、板橋第三中学校の滝口さんが十年ほど前から社会科で「原発」学習の出発点に「被曝労働」（放射線被曝によって一定の労働者の「命を殺す」労働）を据えてきた実践を報告しました。（内容は「子どもと生きる」三〇二号—特集記事参照）

参加者から、部会として今後震災・原発問題の実践・研究を重視していくことと滝口さんの実践報告を再度学ぼうということが出されました。

東日本大震災と福島第一原発「事故」から一年、中学校では新学習指導要領が本格実施となります。本格実施された小学校では教えるべき内容の多さに、教師も子どもたちも悲鳴を上げています。

こうした状況と向き合い、今日的な課題や学校、地域の課題に応える研究と実践を目指しています。（世田谷・緑丘中）